

1 研究開発プロジェクト名:

Ai (オートプシー・イメージング) を用いた死体情報に基づく死因に関連する情報の統合的な利活用に関する研究開発プロジェクト

2 当該年度の研究開発プロジェクト実施予定期間:

2018年4月1日から2025年3月31日 / 7年計画の1年目

3 応募者

氏名	山本 正二
所属機関	一般財団法人 Ai 情報センター
所属部局	
職名	代表理事

4 研究開発プロジェクトの概要

亡くなった方を対象に実施する Autopsy imaging (死亡時画像診断) (以下「Ai」という。) に活用する CT や MRI の画像及びその所見と、生前の診療履歴などの情報を一元管理し、情報の共有化による死因究明の正確化、迅速化のためのシステムの研究開発を行う。

年間129万人にのぼる死亡者数(2015年)に対して、解剖が実施されているのは約3%であり、実際の具体的な死因がわからないケースが多く存在し、現在死因不明社会となっている。肉親や親しい人が死亡した場合、死因がわからないことで、遺族が「なぜ亡くなったのか」という疑問と精神的苦痛を感じる例が少なからずみられる。減らすことができる。解決手段として Ai が脚光を浴びているが、これを死因究明の手段として活用することができる。死因を明らかにすることで、遺族の疑問や精神的苦痛を減らすことができる。

Ai は非常に専門性の高い分野であることから、局地的な実施では格差が発生する可能性が非常に高い。そのため、関連する有識者、専門家を集約したネットワークを構成し、医療機関単体ではなく、地域/全国の症例を集積する。さらに、既に保存された死亡診断書と、Ai による診断を比較して得られる情報の解析として AI を利用することで、次世代医療 ICT としての基盤を設計し、ディープラーニングによる死因究明の診断支援の自動化と、レアケースに対応するための AI と読影医(診断医)の協力体制による、死因究明技術の補完/向上を目指す。また、ここから得られた新たな情報を、治療を受けている方々に対して還元することを目的とする。